

授業科目 聴覚障害Ⅱ演習

【担当教員名】 中野 雄一	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

<概要>

聴覚障害を適確に評価するための各種聴力(覚)検査法を実施に即して修得可能な演習である。

<学習目標>

学習記憶でもある検査記録を整理し、理解して、学んだ内容を説明できるようにまとめておく。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	聴力検査にあたって 準備と説明、応答の仕方		講義
2	聴力検査の実際 オーディオメータ、オーディオグラム、域値の測定法		実技
3	純音聴力検査 1) 気導聴力検査 マスクング、検査法の実際		講義、演習
4	2) 骨導聴力検査 骨導聴力、伝音難聴と骨導聴力		講義、演習
5	語音聴力検査 スピーチオーディオグラム、検査法の実際		講義、演習
6	自記オーディオメトリー 自記オーディオメータ、検査法の実際		講義、演習
7	インピーダンス・オーディオメトリー ティンパノメトリー、検査法の実際		講義、演習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	聴覚検査の実際	日本聴覚医学会編	南山堂	2001年、3400円
参考書				
その他の資料	必要な都度 配布する			

【評価方法】

出席・演習の態度と定期試験から評価する。

【履修上の留意点】